

第12回 JaCVAM 運営委員会議事録

日 時：平成21年8月5日（水）10:00-12:20

場 所：国立衛研 第二会議室

出席者：井上達委員長、大野泰雄、増田光輝、秋田正治（鎌倉女子大：日本動物実験代替法学会代表）、
小島 肇 以上順不同、敬称略

*代替法関係組織の正式名の記載は省略しております。ご容赦下さい。

議題：

1. 先回議事録確認

井上委員長の司会のもと、先回議事録（資料1）について確認がなされた。特段の意見はなかった。

引き続き、井上委員長より、動物実験の3Rsに関して以下の報告がなされた。Environmental Health Perspectives (EHP)のweb版によれば、米国において6000の化学物質を実験動物に14の濃度で適用したマイクロアレイ実験が昼夜を問わず進んでいる。過去に例のない規模の実験であり、今世紀末までの人類最後のin vivo実験を目指して米国の省庁研究者が一丸となって結集しているとの説明がなされた。米国アカデミー協会の出版した21世紀の毒性試験の展望に沿った動向であり、将来はin vitroのスクリーニングのみでの毒性試験を目指すものである。このような状況下、日本の行政の対応は心許ないとの説明があった。

2. 評価会議進捗報告

同日午後開催される評価会議の議題が、小島委員より説明された。光毒性試験（酵母および赤血球を用いた光毒性試験バッテリー）、眼刺激性試験（牛摘出角膜試験、鶏摘出眼球試験）および皮膚感作性試験（Local Lymph Node Assay: BrdU-ELISA）について審議をお願いしたいとされた。

3. 評価委員会進捗報告

資料3を用いながら、現在進行中の評価委員会として、パイロジェン試験、眼刺激性試験（細胞毒性：資料24）、急性毒性試験（細胞毒性）、皮膚刺激性試験（培養表皮モデル：資料25）および皮膚感作性試験（reduced LLNA、Non-RI LLNA）の進捗報告が小島委員よりなされた。このうち、皮膚感作性試験においては、評価委員会というよりは、本年10月に開催されるOECD専門家会議のための対策検討会である。また、急性毒性試験においても、OECDガイダンス文書への意見収集を兼ねていると紹介された。

4. バリデーション研究進捗報告

資料3を用いながら、現在進行中のバリデーション研究として、in vitro皮膚刺激性試験（培養表皮モデル）、STTA antagonist 試験（内分泌かく乱スクリーニング）、Lumi-cell アッセイ、コメットアッセイ、Bhas 形質転換試験、h-CLAT (in vitro 皮膚感作性試験)の進捗報告が小島委員よりなされた。このうち、in vitro皮膚刺激性試験を除き、すべて国際バリデーション研究である。in vitro皮膚刺激性試験は6月に終了しており、STTA antagonist 試験およびLumi-cell アッセイは年内に終了すると説明された。

5. 国際動向

資料3に示すように、本年6~7月に開催されたESACやSACATMで小島委員が報告したJaCVAM update（資料5）の説明に引き続き、ECVAM（資料6~8）やICCVAM update（資料9）について説明された。今後の予定として、今月末からのWorld Congress、10月にはドイツBfRの20周年シンポジウムが

予定されている（資料 14）。11 月には韓国に KoCVAM が設立されるとともに（資料 12）、BraCVAM から協力要請（資料 13）が届いていると報告された。OECD の動向として、資料 10 を用いて 4 月のナショナルコーディネーター会議の内容が説明された。本年成立したガイドラインおよび環境問題に対する日本の貢献の高さについて説明がなされた。

6. 審議事項

4 月に合意された ICATM（資料 11）への国際協力にあたり、現在進行中または今後対応すべき提案が小島委員よりなされた。

- 1) 厚労省への予算・組織・人員要求
- 2) 関係学会や業界団体への業務委託（日本トキシコロジー学会、日本動物実験代替法学会、日本環境変異原学会、日本製薬工業会、日本化粧品工業連合協会、日本化学工業協会など）
運営委員会や評価会議への参画要請、資金供与
- 3) 他省庁との連携強化（厚労省審査管理課以外の部門、経済産業省、農林水産省、環境省）
顧問会議への参画要請

これを受け、以下の意見が得られた。

- ・ 資金と人、物がなければ国際的な対応はできない。特に財政的な支援がなければ安定な見通しは立たない
- ・ 科学技術連絡会議に対する学会からの支援要請が必要
- ・ 業界に資金面（fund など）での支援をお願いする
- ・ 寄附講座の設立や財団を組織する
- ・ 各省の縦割り行政にまたがらない領域で試験法を推奨していく
- ・ バリデーション、評価委員会毎に寄付を募る

以上のような意見をもとに、以下の提案に対処することになった。

- 1) 資金の受け皿として、日本動物実験代替法学会との協力関係を深める
- 2) 業界団体に資金協力を促す文書を作成する
- 3) その文書等を持参して、資金協力の依頼に伺う。業界団体の代表にお会いすること。特に日本化学工業協会との協力関係を構築していく

7. その他

資料 23 を用いて、JaCVAM ホームページとその利用率について小島委員より説明がなされた。月のアクセス数は 1000 に届かないが、徐々に利用者が増えている。英文版もまもなく掲載すると説明された。一般向けの動物実験に関する安易な説明資料を掲載する要望が秋田委員より提言された。

以上

配布資料一覧

- 1) 第 11 回 JaCVAM 運営委員会議事録
- 2) JaCVAM 関係者リスト
- 3) 2007-2009 年 JaCVAM の活動と今後の予定

- 4) JaCVAM 第2回ワークショップ
- 5) JaCVAM Update
- 6) ECVAM Update
- 7) Renewal of ECVAM's Entities for Scientific Advice and Stakeholder Dialogue
- 8) Open Call for Expression of Interest in Membership in the ECVAM Scientific Advisory Committee (ESAC)
- 9) NICEATM-ICCVAM Update
- 10) 第21回試験法ガイドラインプログラムのナショナルコーディネーターのワーキング・グループ会合 (WNT) 報告
- 11) NIH News
- 12) NiFDS KoCVAM
- 13) ATLA 36, 705-708, 2009/07/29
- 14) Symposium 20 Years of ZEBET at the BfR and 50th Anniversary of the Three Rs
- 15) WC7 発表原稿
- 16) WC7 発表原稿
- 17) WC7 発表原稿
- 18) 3 VAM の規模・予算比較表
- 19) 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律の一部を改正する法律案に対する付帯決議
- 20) MEMORANDUM OF COOPERATION
- 21) 改定 JaCVAM 活動規則案
- 22) 改定 JaCVAM 活動規則案 英語版
- 23) JaCVAM のホームページ
- 24) 第1回眼刺激性評価委員会議事録(案)
- 25) 第6回皮膚刺激性評価委員会議事録(案)